# 2020年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」成果報告書

2021年3月 国立大学法人弘前大学

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、弘前大学が実施した2020年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って,本報告書の複製,転載,引用等にはスポーツ庁の 承認手続きが必要です。

# 目 次

1	事業	の	目	的	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3頁
2	事業	イ	メ、		ジ	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4頁
3	実施	体	制	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4頁
4	活動	報	告	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5頁
5	事業	成	果	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	3頁
6	今後	(の)	課	題	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	3頁
7	実行	委	員:	会》	名:	簿	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	4頁
付録	<u>l</u> 1	ij	<u> </u>	フ	レ	vy	ト	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		•	1	5 頁

## 1 事業の目的

## 【2019年度の課題と次年度の方向性】

スポーツを通した共生社会の実現

## 弘前大学モデルの拡張

~特別支援学校発のインクルーシブスポーツ教室の開催~

## 【課題と方向性】

- 幼児期の身体運動の必要性
  - ⇒生涯スポーツに繋げるために、幼児期から行える活動の提供 「運動を調整する能力」が著しく向上する幼児期に、対象を広げ取組を提供する。
- ・インクルーシブスポーツの活動場所の検討, 普及活動
  - ⇒特別支援学校を会場に実施した結果, 健常児の参加が少なかった。活動場所を小学校に広げる。

活動の共通理解。

障害者スポーツの地域格差を解消

# ICT 機器を活用したサテライト大会の同時開催

## 【課題と方向性】

- ・競技スポーツを通して、同年代の人との交流
  - ⇒高い目標設定, 意欲の向上
  - ⇒他県の選手との競技スポーツを通した交流
- ・ICT 機器を通したスポーツイベントへの参加
  - ⇒遠方からの参加を可能にしたイベント開催

# 【2020年度】地域に根ざしたインクルーシブスポーツ活動の構築

スポーツを通した共生社会の実現

附属特別支援学校がコーディネーターとなり,地域総合型スポーツクラブや地域 のスポーツ施設の人材を有効活用

⇒インクルーシブスポーツの普及と拡大を図るための環境整備

地域の関係機関との連携強化

生涯を通したスポーツ活動に繋がるために, 幼児期に遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感は, 体を活発に動かす機会を増大させるとともに, 何事にも意欲的に取り組む態度を養う。

⇒幼児期の活動の設定「きっずパークとみ~の」

障害者スポーツの地域格差を解消

遠隔地からの大会参加やスポーツ交流活動を可能とする,地域格差の解消に向けたスポーツイベントの継続開催

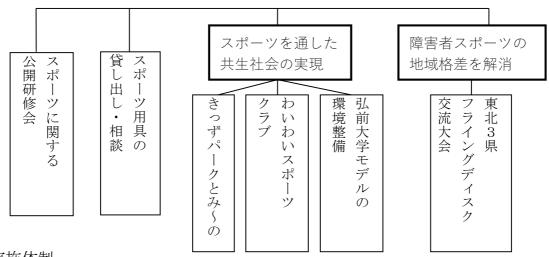
⇒サテライト会場の拡充。

東北3県をICT機器で繋げたフライングディスク競技大会の開催



インクルーシブスポーツを通じた共生社会の実現

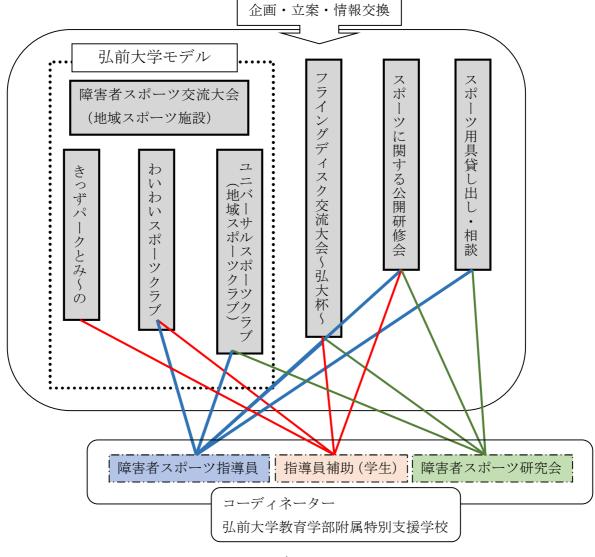
## 2 事業イメージ



## 3 実施体制

#### 実行委員会

弘前大学関係者,青森県障害者スポーツ指導員会,青森県身体障害者福祉センター,弘前市健康福祉部障がい福祉課,弘前市市民生活部文化スポーツ課,スペシャルオリンピックス日本・青森支部,青森県特別支援学級設置校長協議会弘前支部,青森県特別支援学校長,津軽地区特別支援学校体育等担当者,スポネット弘前,岩木振興公社 他



#### 4 活動報告

## 【実行委員会】

- 1)日 時 第1回目 令和2年8月 5日(水) 13:30~16:00 第2回目 令和3年2月10日(水) 14:30~16:00
- 2) 会 場 第1回目 弘前パークホテル 4階 フィオーレ

第2回目 Zoomオンライン開催

- 3) 構成委員 7実行委員階名簿参照
- 4) 内 容 第1回目
  - ・令和2年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」について
  - ・「第4回フライングディスク交流大会」について
  - ・「弘前大学モデル」について
  - ・「障害者スポーツ研究会」について
  - ・今後の方向性について第2回目
  - ・令和2年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」の報告
  - ・次年度の方向性について

次年度に向けて、活動計画や実行委員の在り方 等

## 5) 意見等

・今後、サテライト大会を増やす予定はあるのか。もし、増やすのであれば岩手 県がよい。

全スポを開催し、スポーツ協会も活発、スポンサーも多い。

- ⇒フライングディスク交流大会~弘大杯~では, 岩手県を加えた東北3県で実施した。
- ・共生社会ホストタウンとして障害者スポーツの推進を共同で行うことは, 弘前 市として利益になる。地域の体育施設を借用も一般の抽選方式ではなく, スム ーズに利用可能となる。
  - ⇒「わいわいスポーツクラブ」共催で開催した。弘前市民体育館を利用できた。
- ・開催曜日は、就労支援があることから日曜日に開催すると人が集まるかも。
- ・ねむのき会館では、陸上は月2回、日曜日に開催している。日曜開催のほうが 参加者が増えるだろう。
  - ⇒今年度は、うまく調整できなかった。次年度以降調整したい。
- ・コロナ禍でICT機器を使って、GIGAスクール構想を活用し、すぐにはできなくても長期的にそれに頼っていくことも必要だろう。
  - ⇒事業申請変更をかけて、オンラインスポーツ教室を試行。
- ・本校は重度の子が多く、周知は参加できそうな子に限られている。医療的ケアの必要な子に看護師を配置すれば、参加者も増えるだろう。
- ・ユニバーサルスポーツの中ににユニホックがあるが、通常の子がやってもおもしろい。 小・中学校の体育の先生方に講習会をやって周知してはどうか。中教研の競技の講習会に出向いて講習するのも一つである。また、まず支援学級の子が体験し、通常学級の子とのつながりのなかで広げていければよい。
  - ⇒会場に集まることが難しい方には、VRゴーグルを使用した、視聴体験やオンラインスポーツ大会の方が参加の可能性が高くなると予想する。次年度、取り組みたい。
- ・県内で支援学校間のつながりをつけていった方がよい。ギガスクール構想の一環として、リモートで行うことも一つだろう。移動手段の制約やコロナの制約はあるが、少しずつつながりをつけていくことも一つの方法だろう。
- ⇒次年度、オンラインを中心にプログラムを検討していきたい





# 弘前大学モデル

# 【きっずパークとみ~の】

1)期 日 1回目 令和2年 9月 5日(土)

2回目 令和2年 9月19日(土)

3回目 令和2年10月 3日(土)

3)会場 弘前大学教育学部附属特別支援学校 第一体育館

4) 参加者 1回目 17名

2回目 18名

3回目 24名

5)参加者の声

- ・障害があっても安心して、思いっきり遊ばせることができる。
- ・公共の施設に連れていくにはまだ抵抗がある。こういう場があると参加できる。
- ・子供が遊んでいる中で、スタッフに日頃の悩みを相談できるのでよい。
- 家庭でできない遊びができるのでありがたい。
- ・初めての子と友達になって一緒に遊んでいた。
- ・子供の新しい課題が見えた。
- ずっと続けてほしい



## 【わいわいスポーツクラブ】

1)期 日 1回目 令和2年 9月 5日(土)

2回目 令和2年 9月19日(土)

3回目 令和2年10月 3日(土)

2)会場 1回目 弘前大学教育学部附属特別支援学校 第二体育館

2回目 弘前市民体育館 3回目 弘前市民体育館

3) 内容・講師 1回目 フライングディスク・福沢和彦(青森県障害者フライングディスク協会)

2回目 フライングディスク・齊藤誠 (青森県障害者フライングディスク協会)

3回目 ボッチャ・福沢和彦 (青森県ボッチャ協会会長)

4) 参加者 1回目 参加者 5名, スタッフ3名

2回目 参加者 7名, スタッフ3名

3回目 参加者29名, スタッフ3名

5)参加者の声・コロナ禍でも参加できてうれしい。

・市の体育館は大きくて、思いっきり走れる。嬉しい。

・市の体育館だと参加しやすい。抵抗感が少ない。

・子供から、行きたいとチラシを見せてきた。嬉しかった。

・子供のこんなに楽しそうにしている姿見ることができて嬉しかった。

















## 事業申請変更申請書提出後

## 【VRスポーツ】

1)期 日 令和3年1月

2) 対 象 本校中学部1年生

3)会場本校教室

4)種目 バレーボール

~Vリーガーのスパイクをレシーブできるか!?体験入部編~

5) 体験の声

- ・VR体験をしました。はじめてやって難しかったです。みたら、バレー選手がいて、ボールをパスするのがはやかったです。あんまり上手にできませんでした。
- ・VR初めてつけてみましたが、動画とちがって本当に体育館にいる感じでした。プロのスパイクがはやかったです。
- ・VRをやってみて、ちょっとむずかしかったです。バレーボールのボールが速すぎて、レシーブがむずかしかったです。
- ・頭にかぶってみたら急に別世界に入り込んでびっくりしました。 YouTube でいっぱい人が出てきて、バレーのやり方を教えてくれたけ ど、あまり動けませんでした。でも声が大きくて聞こえやすかったで す。
- ・スポーツとか色々あってバレーボールとかは、学ぶときとかにとても 良いと思いました。あと、ほかにリアルでとても覚えやすいと思いま した。





## 【ユニバーサルスポーツクラブ】

地域総合スポーツクラブが主催し、インクルーシブスポーツ教室を開催した。

# 【スポーツ交流大会】

岩木振興公社が主催し、ボッチャ交流大会を開催予定だったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、開催を中止とした。



## 【第4回フライングディスク交流大会~弘大杯~】

東北3県をICT機器で繋ぎ、オンライン競技を実施した。

- 1) 日 時 令和2年12月20日(日)9:00~11:50
- 2)会場。弘前大学教育学部附属特別支援学校、第二体育館(本会場)

福島県立西郷支援学校(サテライト会場1)

岩手県ふれあいランド盛岡(サテライト会場2)

- 3)参加者 選手38名(本校児童生徒20名,福島県13名,岩手県5名)
- 4) 日 程 9:00~ 9:10 受付

9:10~ 9:30 開会式

9:30~ 9:55 講習会

10:00~11:40 競技

11:40~11:50 閉会式

- 5) 競技種目 フライングディスク アキュラシー競技
- 6)参加者・役員の声

## 【参加者】

青森県:いつもと同じ環境で、全国レベルの人と競技することができた。

移動時間が無くて良い。参加しやすい。

岩手県:新型コロナウィルス感染症拡大防止に伴い、活動が制限される中、ICT機器

を通して、競技審判ができる機会がもらえたことが嬉しかった。

こんなことできるんだ~。

コロナ禍で、フライングディスクの審判ができたこと、そして、嬉しそうな参

加者の表情が見られたことを貴重だと感じた。

福島県:交通の便が悪く、いろいろな人と交流することが難しかったが、ICT機器を通して、県内外の選手とフライングディスク競技ができて嬉しかった。

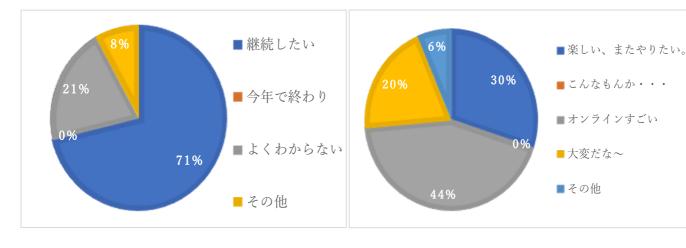
新型コロナウィルス感染症で、なかなか交流ができない中、ICT機器を通じて他県の選手と交流ができ、競技しているときの参加者の笑顔を見ることができてほっとした。

【役員】

- ・気軽にオンラインで参加できる環境ができたと感じた。
- ・オンラインであれば、延期することなく予定の期日で行う。
- ・オンラインでは、東北各県の子どもたちとの交流ができればいいと思う。
- ・参加した生徒達はとても充実した時間だったと思う。
- ・放送担当の先生方にとって、ユーチューブ配信等の機器の設定など、大変さ を感じた。
- ・今年度開催して参加した児童生徒の表情を見ていて、スポーツに触れる、スポーツを通して交流することの良さを実感したため、スポーツの推進を掲げる学校として、多くの児童生徒にこの経験をさせてあげられたらいいなと感じた。

# 【アンケート結果】 今後の方向性について

#### 役員として参加しての感想





## 【障害者スポーツに関する公開研修会】

Zoomでのオンライン研修会を開催した。

- 1)期 日 令和3年1月29日(金)
- 2) 講演 「幼児期の身体運動の大切さ」 ~子どもの「やりたい」を引き出し未来につなげる~
- 3)講師時本英知氏(新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科)
- 4)会場 弘前大学教育学部附属特別支援学校第二体育館 本会場 第2会場 ヒロロ 研修室 ※オンライン環境がない参加者
- 5) 参加者 53名(本校職員,県内外特別支援学校,近隣の関係施設等)
- 6)参加者の声

【幼児期の身体運動について地域でどのような活動があれば良いか】

- 大きな遊具を使ってのダイナミックな活動
- ・今回のような事例を種々取り入れた体操教室
- ・地域で行われているさまざまな活動に、障がいのあるなしに関わらず参加できる環境
- ・地域での運動会のようなイベントがあり、学校も参加するような活動が復活すれば、 老若男女・障がいの有無を問わず参加でき、幼児へも自然体験を含んだもの休日の校 庭の開放などこどもが集まり、のびのびと身体を動かして遊べる環境
- ・鬼ごっこやダンス,球技などいろいろな選択枝があり,運動が得意な人も不得意な人 が気軽に,親子で楽しめるような活動
- ・保育所,こども園が積極的に身体運動できる環境
- ・各保育所等に「体育の先生(指導員)」を配置又は指導者研修会
- ・障害の有無に関係なく、自由に遊びに行ける場所
- ・障がいのある子どもも参加できる運動サークル



## 5 事業成果

## スポーツを通した共生社会の実現

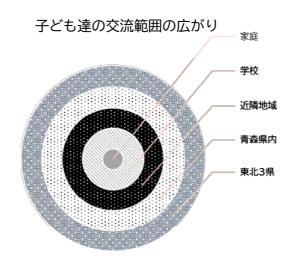
## 【成果】

- ・「わいわいスポーツクラブ」を弘前市と共催で開催
- ⇒ 弘前市の施設をスムーズに借用することが可能
- · 弘前市の掲示板に情報を掲載 ⇒ 情報発信の拡大
- ・「きっずパークとみ~の」の需要が高く、必要性を感じた。

## 障害者スポーツの地域格差を解消

## 【成果】

- ・知的障害や発達障害があることにより、慣れない場所への適応困難や感覚の過敏・鈍麻 などの特性が強く個別的対応が欠かせない参加者であっても、普段取り組んでいる環境 を大きく変えずに競技でき、負担を小さくしつつも自分らしさを発揮した活動参加につ ながった。
- ・コロナ禍での, 障害者スポーツの経験や他児との交流機会を保障することができる新た な活動の可能性が見えた。



## 6 今後の課題

## スポーツを通した共生社会の実現

#### 【課題】

- ・新型コロナ感染拡大防止のため、集まっての活動が難しい
  - ⇒ ICT機器を活用したプログラムの検討

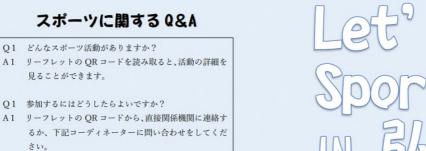
## 障害者スポーツの地域格差を解消

#### 【課題】

・オンライン実施に向けて機器を操作できる職員が少なく,機器の扱いに詳しい一部職員 への負担が大きくなっており,誰でも扱える環境設定やICT機器の研修の必要性を感じ ている。

# 7 実行委員会名簿

		氏	名		所 属	役		職
1	福	沢	和	彦	青森県障害者スポーツ指導員会	会		長
2	竹	内	雅	宣	青森県身体障害者福祉センター	主		事
3	佐	藤	龍	太	弘前市福祉部障がい福祉課	主		幹
4	船	水	威	徳	弘前市健康こども部スポーツ振興課	主		事
5	三	或	美	香	スペシャルオリンピックス日本・青森支部	評	議	員
6	鹿	内		葵	総合型地域スポーツクラブ スポネット弘前	理	事	長
7	工	藤	直	樹	指定管理者(一財)岩木振興公社	業	<b></b>	任
8	蒔	苗	隆	文	青森県特別支援学級·通級指導教室設置学校長協議会 弘前支部(弘前市立千年小学校 校長)	支	部	長
9	福	田		寛	青森県立弘前第一養護学校	教		諭
1 0	左	舘	泰	大	青森県立弘前第二養護学校	教		諭
1 1	エ	藤	知	哉	青森県立弘前聾学校	教		諭
1 2	石	田	千	里	青森県立森田養護学校	教		諭
1 3	荒	Ш		大	青森県立黒石養護学校	教		諭
1 4	保	村	崇	有	青森県立浪岡養護学校	教		諭
1 5	福	島	裕	敏	弘前大学教育学部	学	部	長
1 6	戸	塚		学	弘前大学教育学部(地域連携支援室 室長)	教		授
1 7	増	田	貴	人	弘前大学教育学部	准	教	授
1 8	本	間	正	行	弘前大学教育学部	学剖	長記	講師
1 9	益	Ш	満	治	弘前大学教育学部	講		師
2 0	三	上		徹	弘前大学教育学部	事	務	長
2 1	小笠	笠原	裕	_	弘前大学教育学部	事務	長	補佐
2 2	JII	村	泰	弘	弘前大学教育学部附属特別支援学校	校		译
2 3	奈良	見岡	孝	信	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教		頭
2 4	岡	田	_	也	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教		諭
2 5	對	馬	大	成	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教		諭
2 6	及	Ш	望	美	弘前大学教育学部附属特別支援学校	事務	新	主任
2 7	中	嶋	実	樹	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教		諭



Q1 参加できる対象障害種や程度を教えてください。

A1 誰でも、どなたでも参加できます。 お申込み時の内容から、できるだけ一人一人に合わせた 支援を取り入れて、一緒に体を動かすことを楽しんでも らいたいと思います。障害がない方も大歓迎です。

- Q1 参加費はいくらですか?
- A1 参加費をいただいている活動もあります。ユニバーサル スポーツクラブは、1回100円です。

#### 【コーディネーター】

#### 弘前大学教育学部附属特別支援学校

₹036-8174

青森県弘前市大字富野町 1 番地 7 6 TEL 0172-36-5011 FAX 0172-36-5012



(表)

